

菅笠は、天和の末、貞享年間より以前の書に見へざれば、當時天和貞享より流行しものなるべし、殊更元祿始の頃は、専らになれるにや、櫻陰秘事元祿二には所々にかぶれる體あり略中菅笠は元祿六年より寶永の中頃まで専ら流行す、

〔我衣〕享保年中如此略 圖 笠ヲ作り出ス、網ノ上ヲ雨ノモラヌヨウニカブセタリ、所々ヲカハニテ

シメムスビスステニス、ノキノ廻リ結ビタリ、犬笠也、雨ニ用ユ、略 中

寶永ヨリ始テ杉形ノスゲ笠犬ニハヤル、武士町人スベテカムル、正徳ゴロ上笠出ル、キヌ糸ヌヒ針金トメ、次ハアサ糸ヌヒ也、

〔嬉遊笑覽器用〕中 當流女用鑑四年、真野のすが笠か、へ帶、追風あたりに芬々たり、是

なん都女郎云々、其頃より行はれたり、此笠今の殿中に似て頂尖りたり、其後江戸にても、武家町家ともに女の笠これを用、菱川が畫にみゆ、

〔秋苑日涉十一〕幕籬

三四十十年前、有帽子上戴、垂簷白莞笠者、近來莞笠皆用平頂一字者、無有垂簷

〔守貞漫稿二十九〕菅笠昔ハ上總國ヨリ製シ出ス、元祿以來加賀國ヨリ産ス、加賀笠ト云、總製ハ粗

賀製ハ精美也、略 中

古キ伊勢道中ノ唄ニ、大坂ハナレテハヤ玉造リ、笠ヲ買フナテ深江ガ名所云々、河州深江村ニテ

専ラ菅笠ヲ製ス、今モ然リ、蓋加賀製ノ多キニハ及バズ、今世モ加賀産美製ニシテ而モ多ク産ス、

菅性日本第一トスル也、略 中

菅笠、蝙蝠形、杉形、雷盆形、スリバチ 圖略 以上

今世三都トモ、士民旅行ニハ菅笠ヲ用フ、形種々アリ、或ハ八品ニ應テ用之、或ハ隨意用之、略 中

花笠略 中 江戸山王神田ノ祭祀ニハ、警固ノ衆人、各一文字菅ニ摸造花包ヲ付テカムル也、他人